



2016年3月期 第1四半期決算概要

ルネサス エレクトロニクス株式会社
2015年7月31日

2016年3月期 第1四半期決算概要

2016年3月期より、経営者が意思決定する際に使用する指標（以下Non-GAAPベース）を資料上開示しております。

Non-GAAP連結業績は、財務会計上の数値（GAAP）から非経常項目やその他の調整項目を控除したもので、当社グループの恒常的な経営成績を理解するために有用な情報と判断しております。

2016年3月期 第1四半期 決算概要

売上高は想定ライン、
利益率は前年同期比、前四半期比、予想比すべてで向上

売上高、半導体売上高の前年同期比、前四半期比、予想比は小数点以下を四捨五入

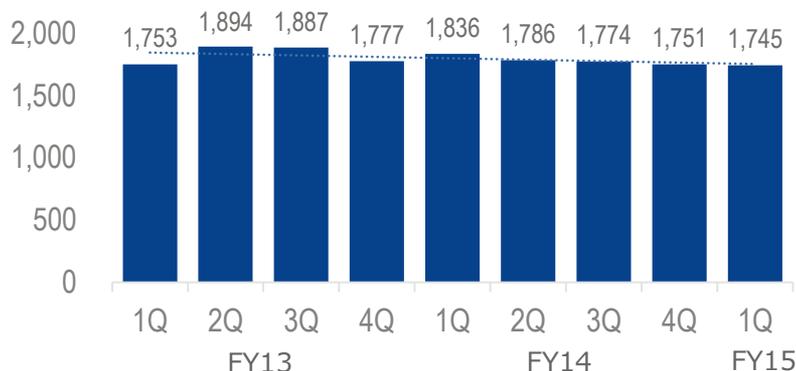
(億円)	2015年3月期		2016年3月期			
	第1四半期	第4四半期	第1四半期	前年同期比	前四半期比	予想比
売上高	2,093	1,822	1,793	△14%	△2%	±0%
半導体売上高	2,012	1,751	1,745	△13%	±0%	±0%
売上総利益率	38.5%	42.8%	44.5%	+6.1pts.	+1.7pts.	+2.9pts.
営業利益(率)	270 (12.9%)	244 (13.4%)	324 (18.0%)	+54 (+5.2pts.)	+79 (+4.6pts.)	+74 (+4.2pts.)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	212	90	299	+87	+208	+99
EBITDA*1	434	411	477	+43	+66	-
1米ドル	102円	119円	120円	18円 円安	1円 円安	4円 円安
1ユーロ	141円	140円	131円	10円 円高	8円 円高	2円 円安

*1 EBITDA：営業利益+減価償却費+長期前払費用償却額

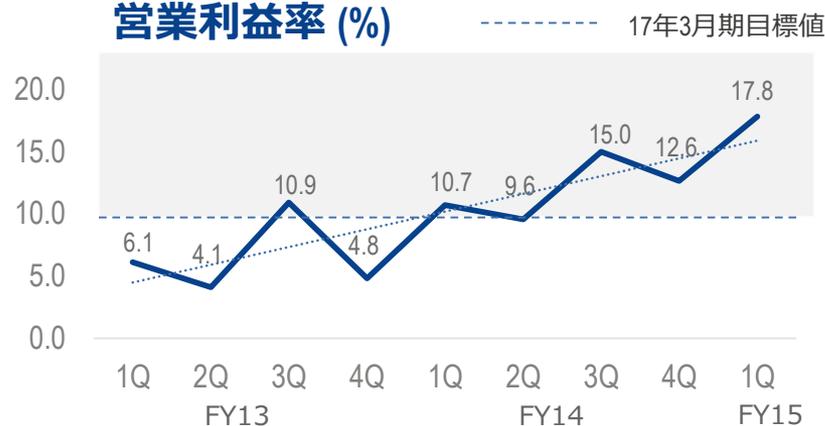
四半期業績推移 (Non-GAAPベース*1)

固定費削減に加え製品ミックスの改善進み、収益性は向上

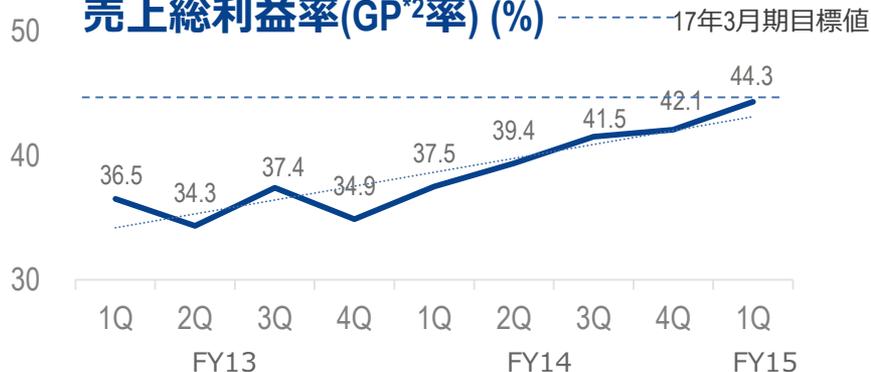
半導体売上高 (億円)



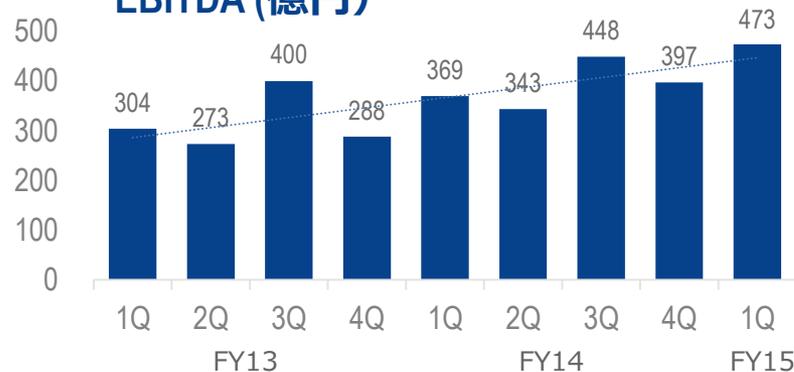
営業利益率 (%)



売上総利益率(GP*2率) (%)



EBITDA (億円)



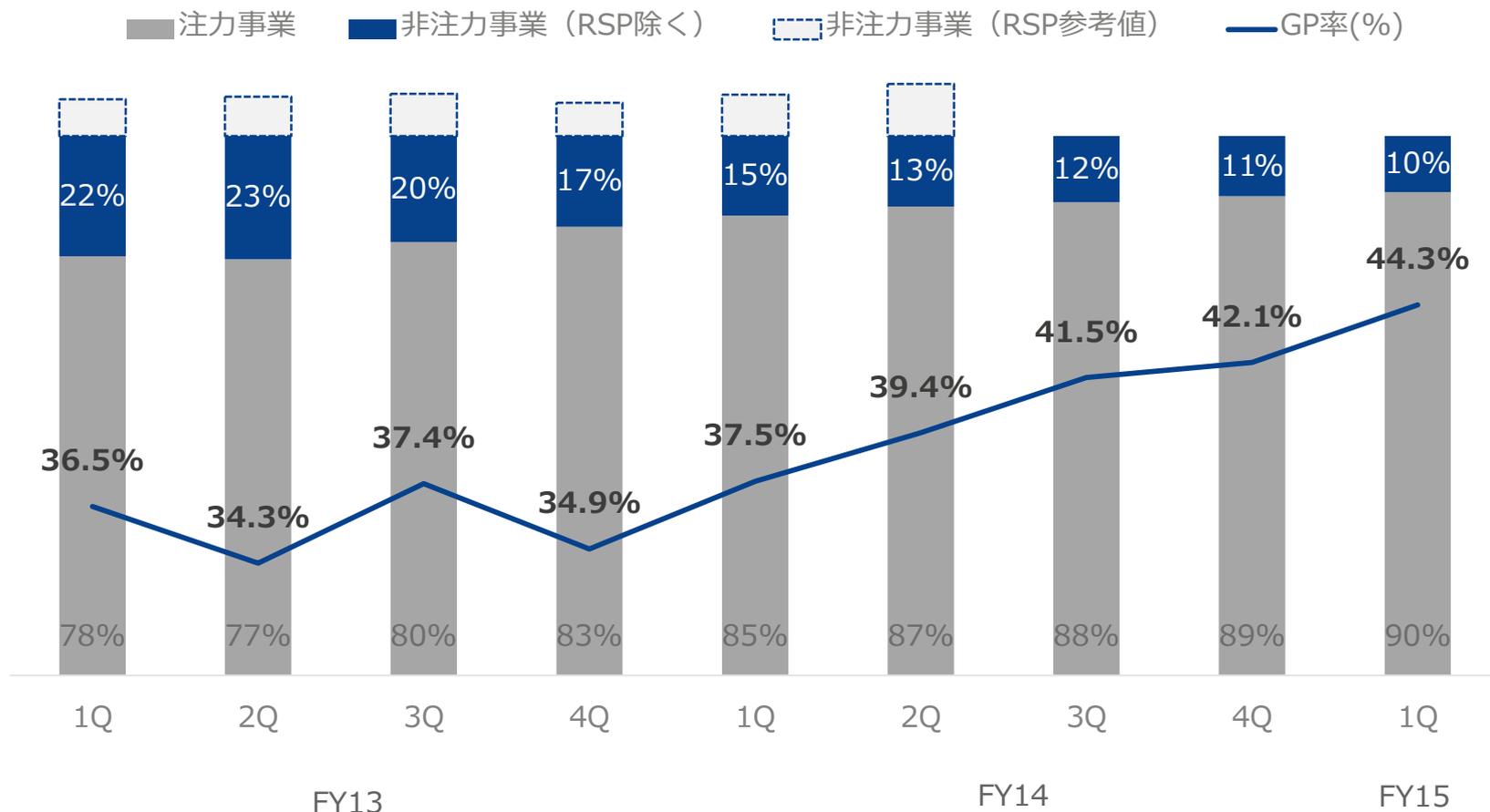
*1 Non-GAAPベース：RSP(ルネサスエススピードライバ)にかかる売上および損益の影響、LTEモデム事業にかかる損益の影響、作り貯めの損益の影響を控除

*2 GP : Gross Profit

注力・非注力事業売上比率推移と

GP率推移 (Non-GAAPベース)

1QのGP率改善（前年同期比+6.8pts.）は、主に汎用向け事業によるもの

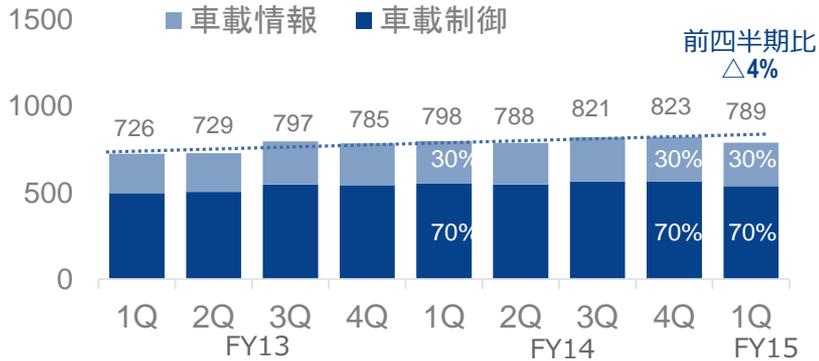


半導体売上高の事業別推移 (Non-GAAPベース)

非注力事業の撤退により注力事業の比率は着実に増加

自動車向け事業

売上高 (億円)

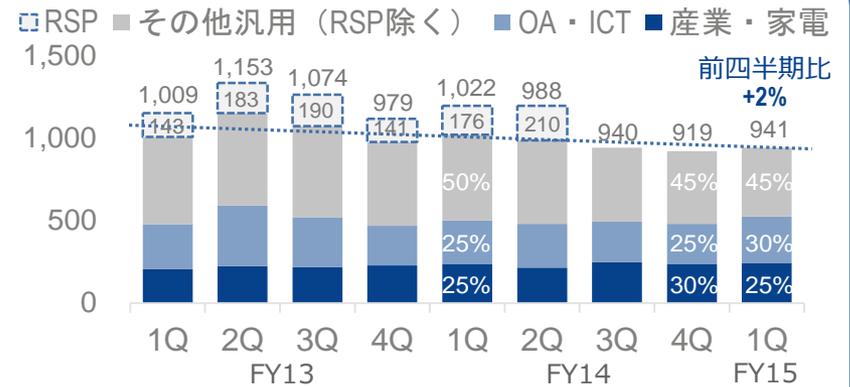


注力事業比率 (%)

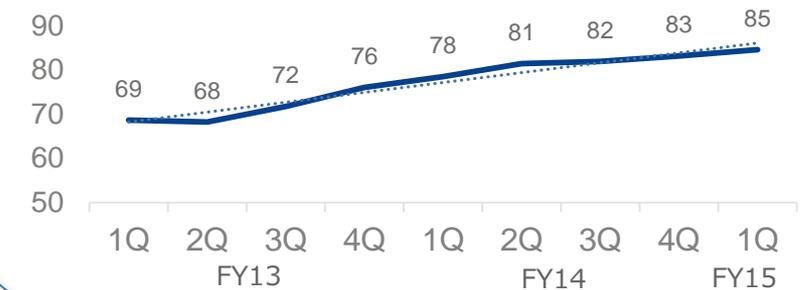


汎用向け事業

売上高 (億円)



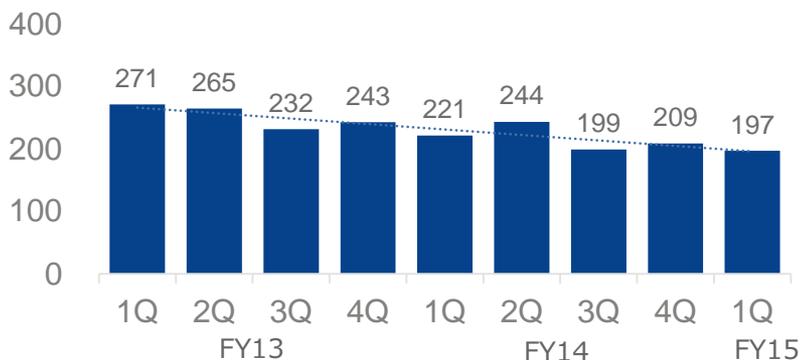
注力事業比率 (%)



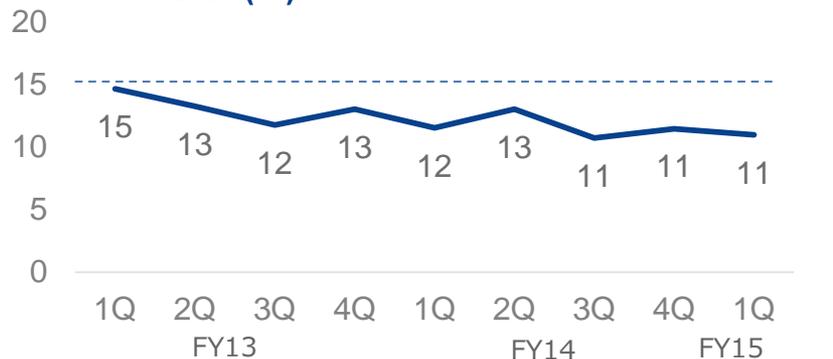
R&D, SG&A推移 (Non-GAAPベース)

R&D*1は今後、注力分野への投資拡大にギアチェンジ
 SG&A*2は想定ライン

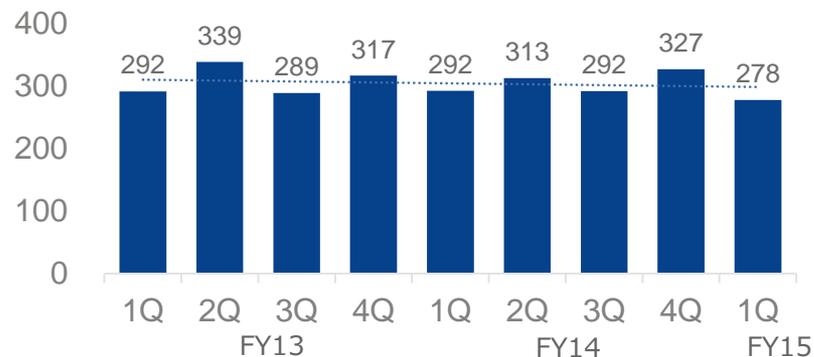
R&D (億円)



R&D比率 (%)



SG&A (億円)



SG&A比率 (%)



*1 R&D : 研究開発費 *2 SG&A : 販売費および一般管理費

2016年3月期 第1四半期 業績サマリー

第1四半期の主な半導体売上高増減背景

■ 自動車向け事業

国内・ASEANの日系自動車メーカーを中心とした販売不振の影響を受け、前年および前四半期比で減収

■ 汎用向け事業

非注力製品の売上は減収傾向だが、産業・家電やOA・ICT向け製品の増収があり、汎用全体としては、前年同期比で減収の一方、前四半期比では増収

第1四半期の主な利益増減背景

■ 売上総利益率

償却費や製造固定費減に加え、たな卸資産の在庫評価などの影響もあり、前年同期比、前四半期比ともに改善

■ 営業利益

GP率の改善やタイトな費用管理もあり、前年同期比、前四半期比ともに増益

2016年3月期 第2四半期業績予想

半導体市場トレンド(金額ベース)

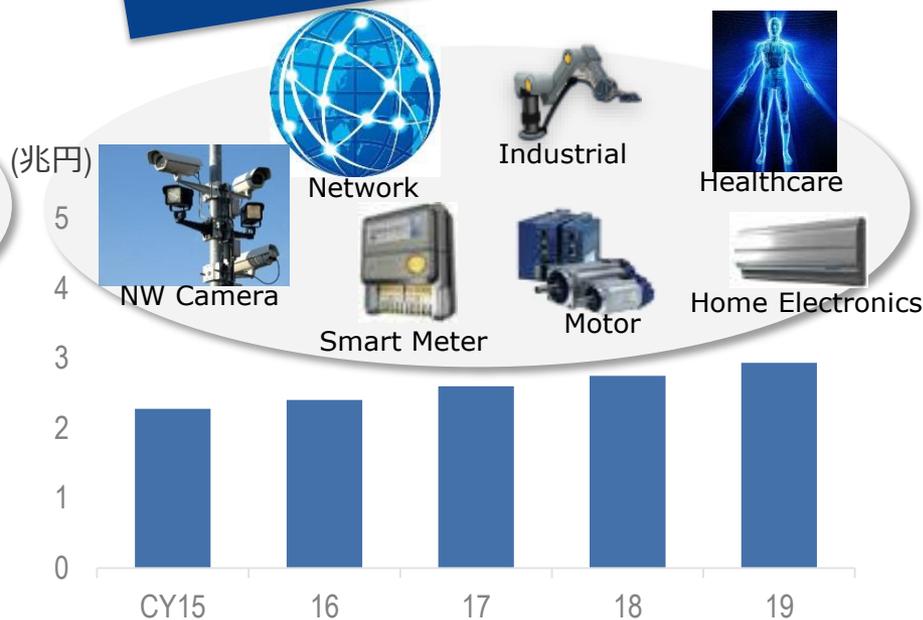
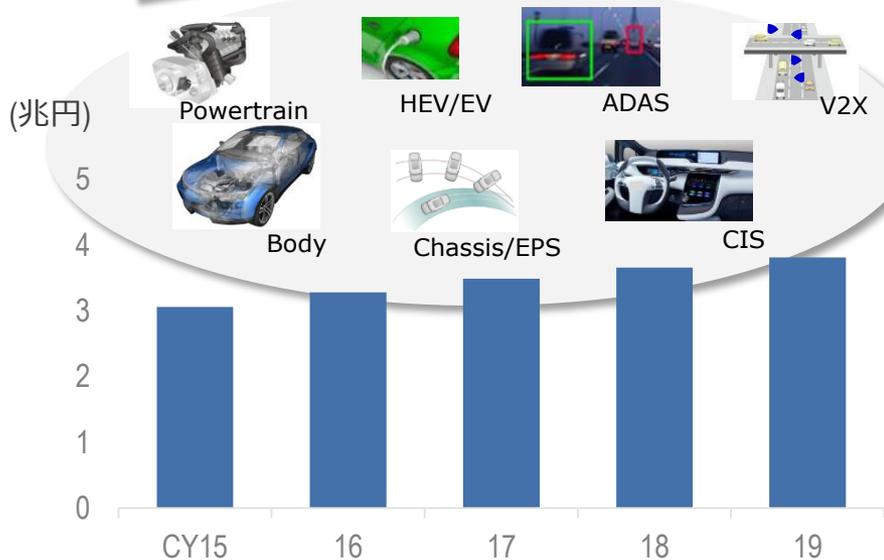
注力分野の半導体市場推移は今後6-7%のCAGR(年平均成長率)を見込む

自動車

汎用*1

CAGR+6%

CAGR+7%



(出典：Strategy Analyticsをベースに1米ドル=110円で円換算)

*1 汎用：FA, 白物家電などの当社注力市場 (出典：当社調べ)

2016年3月期 第2四半期 業績予想トピックス

第2四半期の主な半導体売上高増減背景

■ 自動車向け事業

第1四半期から主に季節性により、前年同期比および前四半期比で1桁%前半の増収を見込む

■ 汎用向け事業

非注力製品の売上はその他汎用を中心に減収傾向だが、OA・ICT向け製品の増収もあり、汎用全体としては、前年同期比で減収の一方、前四半期比では増収を見込む

第2四半期の主な利益増減背景

■ 営業利益

上期末の費用集中により、前四半期比57億円減の266億円を見込む

■ 親会社株主に帰属する四半期純利益

構造改革による特別損失などにより、前四半期比158億円減の141億円を見込む

2016年3月期 第2四半期 業績予想

(億円)	2015年3月期	2016年3月期				
	第2四半期	第1四半期	第2四半期	前年同期比	前四半期比	上期
売上高	2,077	1,793	1,847	△11%	+3%	3,640
半導体売上高	1,996	1,745	1,795	△10%	+3%	3,540
売上総利益率	39.3%	44.5%	43.1%	+3.8pts.	△1.4pts.	43.8%
営業利益(率)	235 (11.3%)	324 (18.0%)	266 (14.4%)	+31 (+3.1pts.)	△57 (△3.6pts.)	590 (16.2%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	139	299	141	+2	△158	440
EBITDA	400	477	422	+21	△55	899
1米ドル	102円	120円	122円	20円 円安	2円 円安	121円
1ユーロ	138円	131円	135円	3円 円高	4円 円安	133円

ビジネストピックス

CTOを新たに設置してコア技術の強化を急ぎ、成長に向けてギアチェンジ



Audi

90nm
BiCDMOS*1

- ✓ 車載向け世界初
40nmマイコン量産中
- ✓ Audi社の戦略的パートナーに
選定（日系初）
- ✓ 世界最先端90nm
BiCDMOS量産中

*1 BiCDMOS : Bipolar CMOS DMOS



- ✓ 200社採用決定
- ✓ 100社にコンソーシアム拡大へ



- ✓ ハイエンドからローエンドまでの
ラインナップ完成



- ✓ IoTに最適な新製品



APPENDIX

GAAPとNon-GAAP間の調整項目

(億円)	2014年3月期				2015年3月期				2016年 3月期
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	前4四半期	第1四半期
半導体売上高 (GAAP) ①	1,896	2,077	2,076	1,918	2,012	1,996	1,774	1,751	1,745
RSP ^{*1} ②	△143	△183	△190	△141	△176	△210	-	-	-
半導体売上高 (Non-GAAP) ①+②	1,753	1,894	1,887	1,777	1,836	1,786	1,774	1,751	1,745
売上総利益 (GAAP) ①	727	779	840	752	805	816	786	781	798
RSP②	△52	△66	△69	△44	△60	△64	-	-	-
作り貯め ^{*2} ③	-	△28	△36	△58	△26	△17	△17	△14	△4
売上総利益 (Non-GAAP) ①+②+③	675	685	736	650	719	735	769	767	794
営業利益 (GAAP) ①	98	109	300	170	270	235	295	244	324
RSP②	△38	△47	△49	△22	△39	△40	-	-	-
LTEモデム事業 ^{*3} ③	52	48	-	-	-	-	-	-	-
作り貯め④	-	△28	△36	△58	△26	△17	△17	△14	△4
営業利益 (Non-GAAP) ①+②+③+④	112	81	215	90	205	179	278	230	320
R&D (RSP)	11	15	16	18	18	19	-	-	-
SG&A (RSP)	3	3	4	4	3	5	-	-	-
R&D (LTEモデム事業)	43	38	-	-	-	-	-	-	-
SG&A (LTEモデム事業)	9	9	-	-	-	-	-	-	-

*1 RSP：2014年10月1日に譲渡したルネサスエススピードドライバの売上高および営業損益

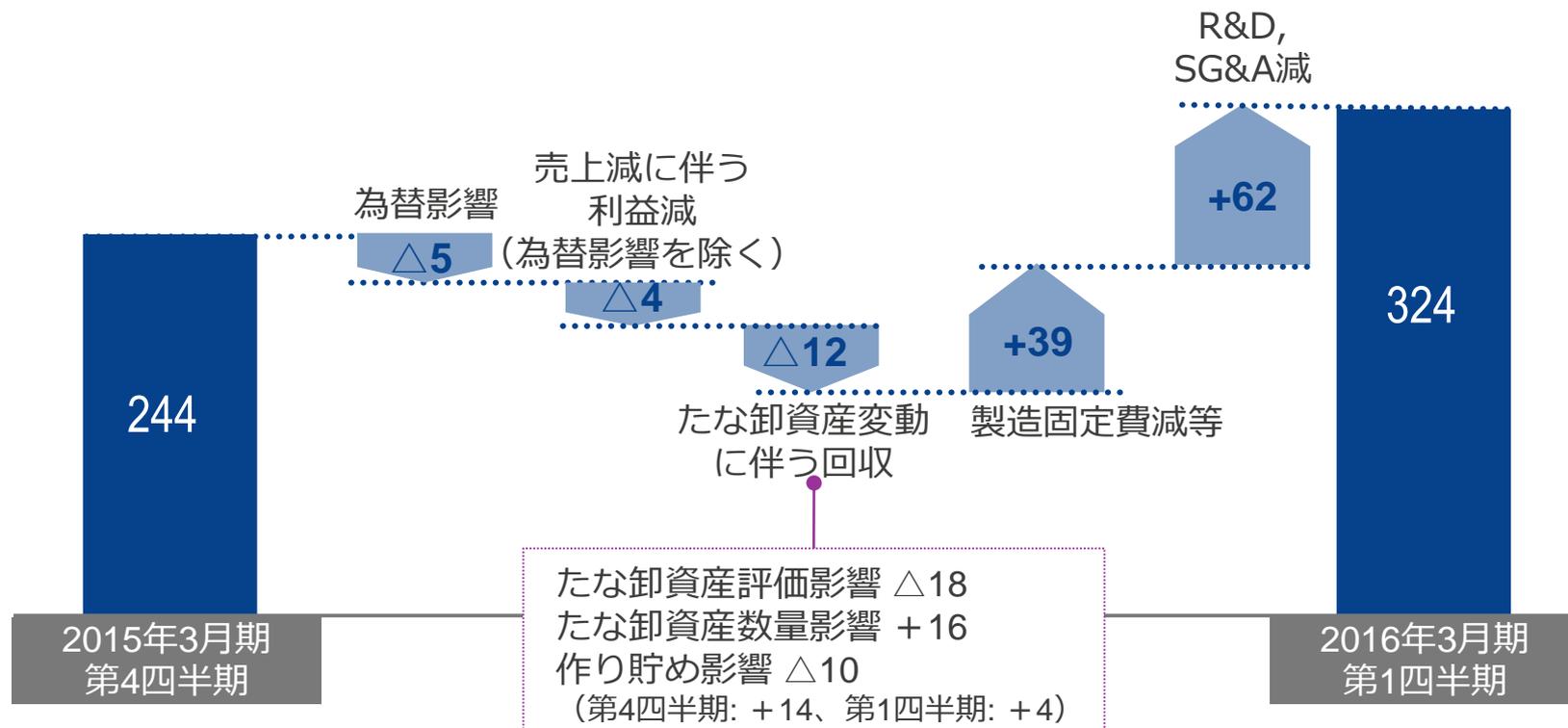
*2 作り貯め：工場再編に伴う、EOL製品の作り貯めにかかる損益

*3 LTEモデム事業：2013年10月1日に譲渡したLTEモデム事業にかかるR&DおよびSG&A

2016年3月期 第1四半期 営業利益

前四半期比 (億円)

- 為替影響や売上減に伴う利益減があるものの、年度末の費用集中の反動により、前四半期比80億円増

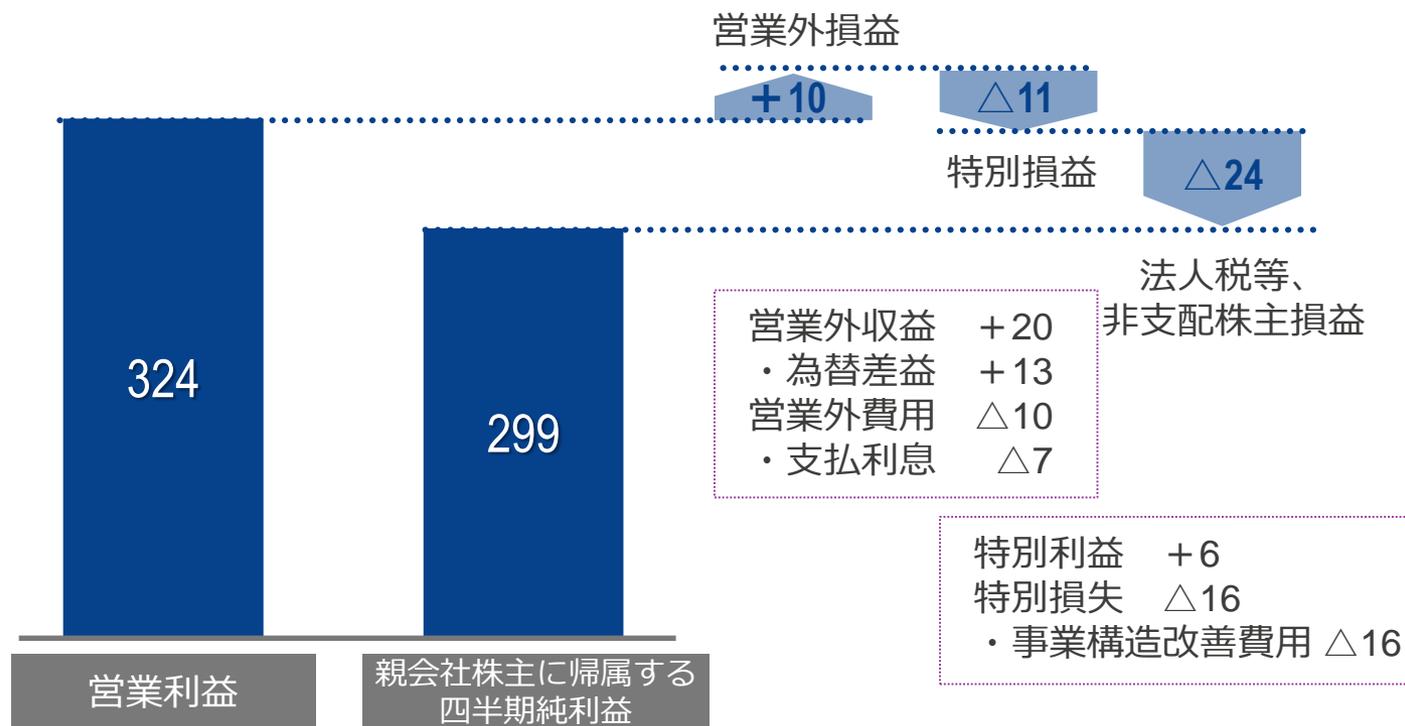


2016年3月期 第1四半期

親会社株主に帰属する四半期純利益

(億円)

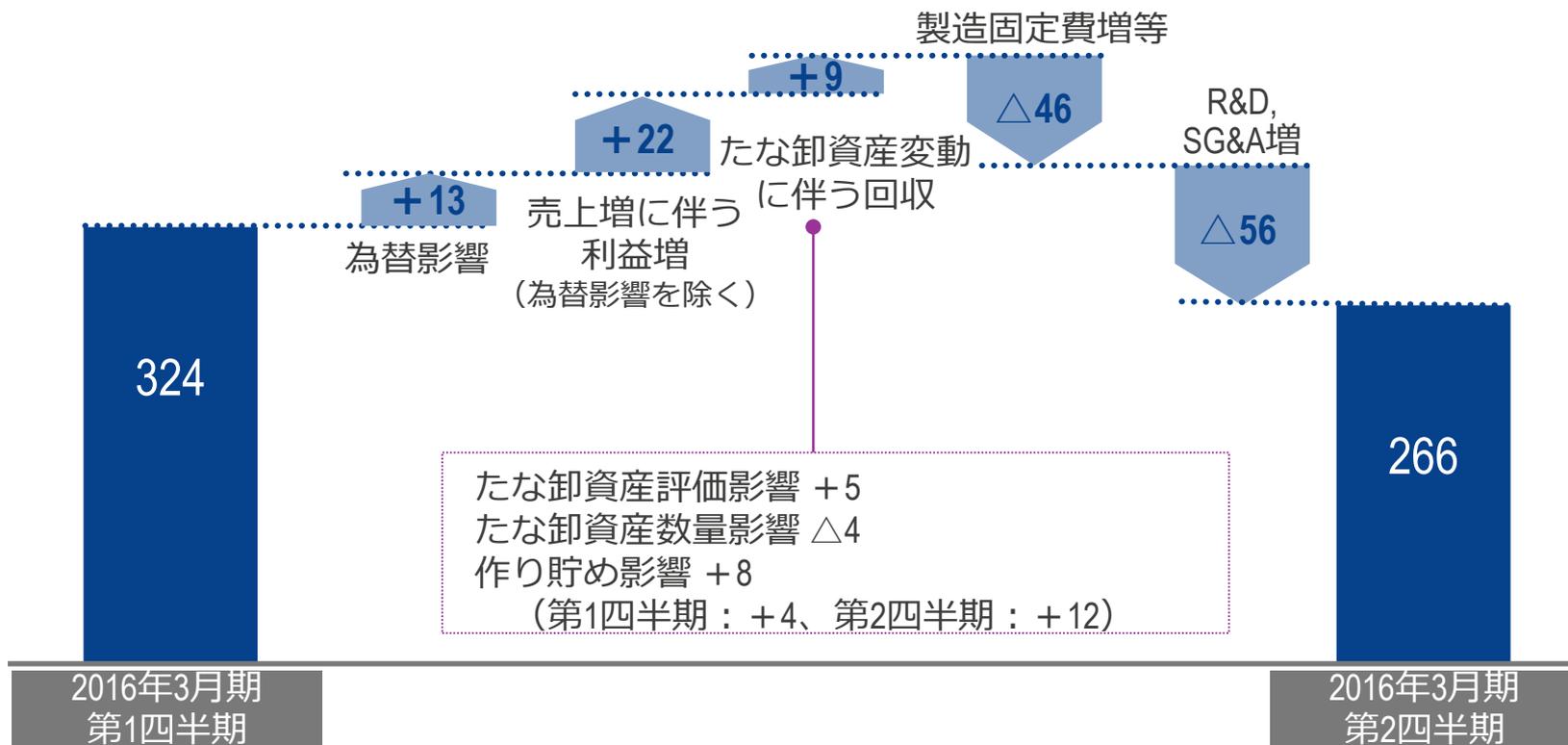
- 第1四半期は為替差益や多額の特別損失も発生しなかったため、親会社株主に帰属する四半期純利益は299億円の黒字



2016年3月期 第2四半期 営業利益見通し

前四半期比（億円）

- 為替影響、売上増に伴う利益増、たな卸資産変動に伴う回収があるものの、上期末の費用集中により、前四半期比57億円減の見通し

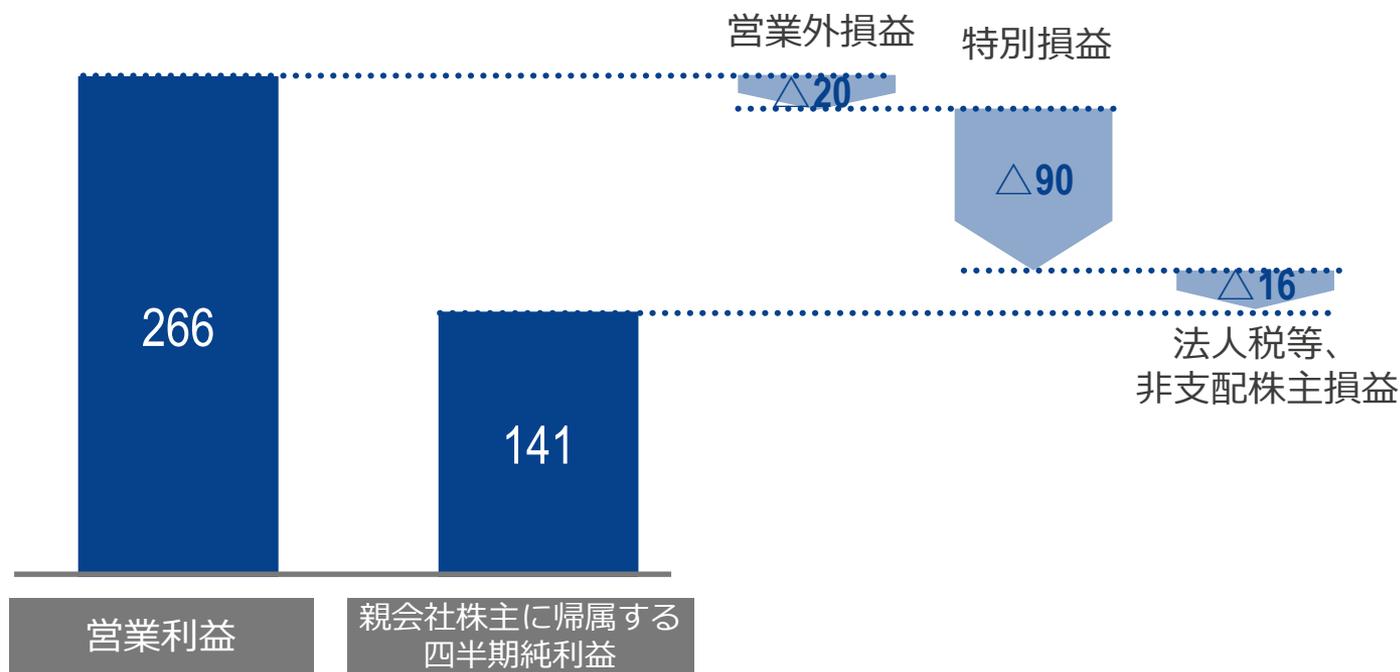


2016年3月期 第2四半期

親会社株主に帰属する四半期純利益見通し

(億円)

- 第2四半期は、生産および設計開発拠点再編に伴う構造改革による特別損失などがあり、親会社株主に帰属する四半期純利益は141億円の黒字の見通し



バランスシートの状況

自己資本比率は40%台まで改善

(億円)	2015年3月末	2015年6月末
総資産	8,401	8,518
うち 現金及び現金同等物	3,437	3,687
うち たな卸資産	1,114	1,131
負債合計	5,282	5,070
うち 有利子負債	2,597	2,594
株主資本	2,778	3,077
純資産合計	3,119	3,447
D/Eレシオ(グロス)	0.84倍	0.76倍
自己資本比率	36.8%	40.2%

(注) ①現金及び現金同等物：「現金及び預金」と「有価証券」の単純合算値から「預入期間が3ヶ月を超える定期預金」を控除しております。

②有利子負債：「短期借入金」、「1年内返済予定の長期借入金」、「リース債務」、「長期借入金」

③自己資本：「株主資本」、「その他の包括利益累計額」 ④D/Eレシオ(グロス)：有利子負債/自己資本

キャッシュ・フローの状況

(億円)	2015年3月期				2016年 3月期
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期
営業活動による キャッシュ・フロー	20	495	410	242	315
投資活動による キャッシュ・フロー	△109	△149	72	△80	△54
フリー・キャッシュ・ フロー	△89	347	482	162	262

(将来予測に関する注意)

本資料に記載されているルネサス エレクトロニクスグループの計画、戦略及び業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づきルネサス エレクトロニクスグループが判断しており、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与える重要な要因としては、(1) ルネサス エレクトロニクスグループの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2) 市場におけるルネサス エレクトロニクスのグループ製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3) 激しい競争にさらされた市場においてルネサス エレクトロニクスグループが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4) 為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因があります。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。